

令和2年度教員免許状更新講習シラバス

講習の区分	【選択領域】受講者が任意に選択して受講する領域		
講習の名称	【選択】発達障害支援における検査結果の見方と活用(入門編)-アセスメントの専門性を高め、効果的な支援につなげる		
開設日	令和2年11月22日(日)	講習時間	6時間
主な受講対象者	幼・小・中・高・特支教諭	受講人数	20人
講習の形態	対面授業、一部グループワークを含む (※備考欄要確認)	会場	佐賀大学:教育学部1号館2階103講義室
担当講師	日高茂暢		
講習のねらい・到達目標	①読み書きの困難を評価する検査結果から配慮・支援を検討することができる ②知能検査WISC-IVの検査結果から学習困難の背景にある認知特性を理解することができる ③知能検査WISC-IVの検査結果から支援方法や教材教具のアイデアを考えることができる		
講習内容	学習障害(LD)、注意欠如多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)等の発達障害のある児童生徒の検査報告書・心理所見についての理解を深めます。特に、今回は読み書き等の困難を示す児童生徒を想定した実習を行います。ペアワークやグループワークを通じて、検査内容、見方、活用の仕方について、受講者内で検討します。また仮想事例を用いて、検査結果を、子どもにとってより良い教育として返すための考え方を協議します。今回は入門編として通常級・特別支援学級・通級指導に携わる若手・中堅の先生を念頭に講習予定です。		
評価方法・基準	グループワークでの質疑・発言の内容、および、仮想事例に対する所見・支援計画に関する筆記試験(3本)から、総合的に判断します。評価基準は、総合点で60点以上を合格とします。		
	認定試験 に関して	資料の持ち込み(可)	
講習計画/講習内容			
開始時刻等	担当講師	内容	補足
I 9:00~10:30 (90分)	日高茂暢	学習困難の評価(LDI-R、稲垣課題、小学生のための読み書きスクリーニング検査)の結果の見方を学ぶ。また仮想事例を題材にグループワークを通じて活用について議論し、支援計画を作成する。	
II 10:45~12:15 (90分)	日高茂暢	包括的読み能力検査CARDの結果の見方を学ぶ。また仮想事例を題材にグループワークを通じて活用について議論し、支援計画を作成する。	
12:15~13:15	昼休み		
III 13:15~14:45 (90分)	日高茂暢	知能検査WISC-IVの結果の見方を学ぶ①。一般的な理解力を評価する言語理解指標、知覚推理指標と、様々なスキル・行動の土台となるワーキングメモリ指標、処理速度指標の見方を学ぶ。	
IV 15:00~16:30 (90分)	日高茂暢	知能検査WISC-IVの結果の見方を学ぶ②。WISC-IVの結果に基づき、仮想事例を題材にグループワークを通じて議論し、支援計画を作成する。	
持参するもの	筆記具、名札(グループワークでお名前を呼び合うため)		
予習について	参考文献を3点紹介します①LDのある子への学習指導—適切な仮説に基づく支援、②特別支援教育の理論と実践[第3版](I概論・アセスメント、II指導)		
受講上の注意	※政府の終息宣言が発せられた場合は、対面講習で実施、継続している場合は、不開講の可能性もあります。 受講者の検査歴、教員歴、担当学級・学校種などを考え、内容の一部を変更・重点化することがあります。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。		